

第2章 地域福祉の現状と課題

1 地域福祉を取り巻く現状

「地域福祉を取り巻く現状に関する図表」(31 ページ以降の資料編に掲載)から、那覇市の地域福祉を取り巻く現状が次のとおり見えてきました。

- (1) 65 歳以上の高齢者人口、一人暮らしの高齢者^{*}・高齢者夫婦世帯の割合が増加し、14 歳以下の年少人口、1 世帯当たりの人員、合計特殊出生率が減少する等、「少子高齢化」^{*}「核家族化」が進んでいます。
- (2) 生活保護を受けている世帯^{*}・人員ともに増加傾向にあり、高齢者世帯が被保護世帯の半数を超えています。保護率は、県平均を上まわり全国平均の約 2.2 倍となっています。
- (3) 障害者(身体・知的・精神)手帳所持者数は年々増加し、なかでも身体障害者手帳^{*}交付者数に占める内部障害(心臓・呼吸器・腎臓機能等の障害)の割合が増加しています。
- (4) 地域活動の中心となる自治会の加入率は減少傾向にありますが、ボランティア登録^{*}をしている団体・個人とNPO法人(特定非営利活動法人)は増加傾向にあります。

2 住民ワークショップから明らかになった課題

市内の4つの小学校区(若狭、さつき、大道、石嶺)で、地域の健康と福祉の課題やその解決のヒントについて話し合った「住民ワークショップ」から、各小学校区に共通する課題が次のとおり明らかになりました。

- (1) 必要な情報が必要な人に必要なときに得られる仕組みづくり
- (2) 生活の困り事を身近で気軽に相談できる窓口
- (3) 地域の人材・資源の発掘と住民活動をリードするリーダー養成
- (4) 健康・福祉サービスの向上やサービス利用者のニーズの把握
- (5) 住民同士のつながりを深め、自治会活動を活性化する等地域パワーの押し上げ
- (6) 新旧住民間や世代間の交流の機会と地域での活動拠点の確保
- (7) 公共施設の活用(空き教室の学童保育利用、公共施設の住民等への開放促進等)
- (8) 地域と学校との連携強化(普通学校での障害児の受け入れ、地域活動強化等)
- (9) みんなが安心して利用できる道路・公園・公共施設

3 バリアフリーアクセス状況調査から明らかになった課題

平成13年度(2001年度)に実施した^{*}バリアフリーアクセス状況調査から明らかになった課題は次のとおりです。

(1) バリアフリーのまちづくりに対する取り組みの強化

新規の建築物等については、「^{*}那覇市福祉のまちづくり条例」に基づく整備が進み、条例の趣旨が徐々に浸透してきていますが、既存の建築物、道路、公園等では一部を除いて改善が進んでいません。福祉のまちづくりについて、事業者をはじめ住民等に対し意識啓発を図り、条例の充実や見直しを検討する必要があります。

(2) 高齢者や障害者を取り巻く交通環境の充実

本市の交通環境は、段差や急な傾斜のある歩道が多い、歩道上に障害物が多い、バスの乗り降りに段差が大きく危険である等、特に高齢者や障害者が円滑に移動する上で困難な状況にあります。高齢者や障害者の社会参加を促進する上で、快適に外出し移動できる環境を整えることが重要です。

(3) 高齢者や障害者支援を軸にした地域活動の充実

地域活動の中心となる自治会、老人会、婦人会等の団体においては、会員の減少や新たな会員の確保等、活動を支える人材の確保が大きな課題となっており、人材の不足が活動の低下や停滞を招いている状況にあります。こうした中で、多くの団体が高齢者支援の充実、とりわけ、子どもと高齢者との交流を望んでいます。

(4) ボランティアの活動機会の充実

住民の2、3割にボランティア経験があり、参加意向も大幅に増えています。地域のボランティア活動を活発にするため、活動機会の創出や活動情報の提供等、活動に参加しやすい状況をつくっていく必要があります。

4 地域福祉を展開する上での課題

(1) 住民の地域福祉活動への主体的な参画の促進

少子高齢化の進展、高い保護率、内部障害者の増加といった現状から、住民一人ひとりが抱える^{*}潜在的な健康や福祉の課題は多く、今後も増加すると考えられます。また、核家族化や自治会加入率の低下等から住民間の交流が停滞していると推測されるものの、「住民同士のつながり」を求める声も多く聞かれ、ボランティアやNPOの増加等からも、支え合いや思いやりの意識は高まりつつあると考えられます。

以上のことから、増加する住民の生活課題を地域で解決していくためには、住民と地域で活動するボランティアやNPOとを結びつけつつ、住民一人ひとりの主体的な支え合いや助けあいの活動を引き出すことが必要となります。

(2) 住み慣れた地域で自立した生活を営むための仕組みづくり

健康、介護、子育てや各種福祉サービスについて、利用できるサービスや地域の支援、活動グループ等の情報を必要なときに得たいという声が多く、また生活する上での心配事や困り事を身近で気軽に相談できる場が欲しいとの声も多く出されました。

だれもが住み慣れた地域で安心して自立した生活を営むためには、住民が身近な地域で正確な健康福祉情報を的確に得ることができ、最適な健康福祉のサービスが受けられるような仕組みが必要です。とりわけ、今後も増加が見込まれる高齢者や障害者の権利擁護や相談体制を充実し、適切な健康福祉サービスの利用の促進を図るとともに、医療機関を含めた事業者との保健福祉のネットワークをつくる等、住民一人ひとりに最適な支援が届く仕組みが必要です。

(3) バリアフリーのまちづくりの強化と交通環境の充実

安心して利用できる道路・公園や、地域での防犯や防災に対する取り組みの強化といった意見も出されました。

だれもが安全で快適に、また安心して生活できるまちづくりのためには、ハードやソフト両面からのバリアフリーを推進し、災害等緊急時に備えた体制の整備が必要です。



… 住民ワークショップの様子 …

住民ワークショップの開催状況を 42 ページに掲載しています。

若狭小学校区



【若狭おとめチーム】

新旧住民の交流の機会が少ないことから、公園の里親活動や公園を活かしたイベント等公園を活用した地域づくりが必要。



【若狭ゆいグループ】

空き教室の活用や身近な地域での活動拠点づくりによって、地域に住んでいる住民自ら地域を見守る体制をつくりたい。

さつき小学校区



【さつきレインボーチーム】

普通学校での障害児の受け入れや地域と学校との連携、ご近所のつながりの必要性等が話し合われました。



【さつきビレッジチーム】

登下校時の安全や健康づくりのため、情報伝達の工夫と、歩きやすく憩える歩道や公園等の環境づくりが必要。

大道小学校区



【ときわの松チーム】

地域パワーを押しあげるために、地域への関心を高め、顔の見える関係をつくとともに、地域の人材発掘や情報伝達の工夫が必要。



石嶺小学校区



【いしんみチーム】

子どもたちが気軽に相談したり、何でも話ができる場として、学校帰りに寄り道できる「ぜんざい屋」や、親身になって相談でき、愚痴がこぼせる「親の居場所」を地域につくりたい。



【清ら^{ちび}^{ぢむ}いしみねチーム】

地域住民が自治会活動へ積極的にかかわることで、自治会活動の活性化につなげ、老人クラブを中心に地域づくりを展開していきたい。